

稜友

August 2014, No.236



沢登り体験山行

新潟稜友会

Home page http://homepage3.nifty.com/niigata_ryoyu/

巻頭言

昔からある道具で何気なく当たり前のように使っているが、よくよく考えると不思議な道具というものがある。山で良く使うコンパスも常に北を指し示す不思議な道具だ。先日ある本で読んだところ、厳密にいうとコンパスにも北半球用と南半球用とがあるそうだ。コンパスが水平方向で北と南を指し示すことはよく知られているが、実は水平角以外に伏角というものがあるそうだ。伏角とは下向き方向に伏せる角のことで赤道ではほぼ水平で 0° 。北極、南極では真下向き 90° 。東京では北側が下向き 50° だそうだ。もしコンパスの針が北も南も等しい重さだと北側が下を向いてしまい水平に構えると針がコンパス底面にすれてうまく回らなくなるそうだ。よって私たちが使うコンパスは南側が北側より重く作られバランスがとられているらしい。このコンパスを南半球で使うと全くの逆効果となり針の南側がコンパス底面とこすれうまく機能しなくなる。もし、南半球に行く機会があったらぜひお試しください。いずれにしてもこの不思議な道具の発見にいかにも助けられていることか。ほかにも身の回りをよくみると面白い現象が発見できるかも……。

(肥后)

次回の巻頭言は丸山(和)さんです。よろしく！

2014年 例会年間予定

例会日	担当	例会内容	備考
1月15日(水)		公募登山の準備	
2月19日(水)		公募登山の準備	
3月19日(水)		事故発生時の対応	
4月16日(水)			
5月21日(水)			
6月18日(水)			
7月16日(水)			
8月20日(水)			
9月17日(水)			
10月15日(水)			
11月19日(水)		総会の議題協議	
12月6、7日(土・日)		6日-忘年会、7日-総会	
12月17日(水)			

2014年 今月のコラム・巻頭言・編集担当者・原稿締切日一覧

月	今月のコラム(*)	巻頭言	編集担当者	原稿締切日
1月	大島	海老名	大島	1/04(土)
2月	海老名	大島	大島	2/08(土)
3月	金子	小川	大島	3/08(土)
4月	佐藤(孝)	小杉	大島	4/05(土)
5月	設楽	鈴木	関川	5/10(土)
6月	杉田	関川	三木	6/07(土)
7月	須藤	橋本(寅)	関川	7/05(土)
8月	中村	肥后(明)	関川	8/09(土)
9月	橋本(聡)	丸山(和)	三木	9/06(土)
10月	橋本(寅)	三木	小川	10/04(土)
11月	丸山(和)	大西	肥后(明)	11/08(土)
12月	大西	金子	大島	12/06(土)

(*) 秘湯、レシピ、こだわりの道具、子育てなどなど、各自自由なテーマで執筆。

2014年公募体験登山が以下のように決まりました。

時期	山行内容	担当	予定候補
3月9日	雪山体験、スノーハイク	金子	川内山塊宝蔵山
4月13日	早春トレッキング	関川	八石山
5月11日	クライミング体験	海老名	杉滝岩
8月31日	沢登り体験	海老名	三国川十字峡
10月19日	紅葉トレッキング	金子	信越トレイル
11月16日	初冠雪トレッキング	金子、海老名	谷川岳天神尾根

稜友会ホームページにも掲載されていますので、内容を確認して下さい。

担当は変更される場合もあります。

山行報告

日程	山域(形態)	メンバー
7月26日	鉾が岳(沢)	佐藤(康)
7月13日	沢登り体験山行 三国川本流	L.海老名、須藤、関川、池上、羽田、荒井
8月3日	大沢川(沢登り)	L.海老名、須藤、国井、関川、羽田、荒井、池上

鉾が岳 (沢)

2014/7/26 天候 晴

25000分の1「槇」

メンバー 佐藤(康)

6:30頃 263m道路脇～入溪～477m二股～左俣～滝～263m道路脇 9:45

終始天気がよく、477mの二股から少し先の滝まで行って来た。

雪はほぼなく、水量も少なかった。

佐藤(康)

沢登り体験山行企画

2014/7/13

南魚沼市 三国川本流

メンバー L.海老名、須藤、関川、池上、羽田、荒井

今年度、試行的に企画した公募登山。沢登り企画に3人の申し込みがありました。当初からルートを選択には頭を悩ませた。沢1本を遡行して稜線まで抜けるのは初見の人を連れてとなると難しい。どこを選べば良いか・・・10年以上前ではあるが当時所属していた「岩遊」の沢トレで行ったことのある「三国川本流」を選んだ。「三国川本流」谷は深く水量も多いが溪谷をとりまく景観も良い。登山道がすぐ脇にあるのでいつでもエスケープが可能。しかし当日は大雨の後でかなり水量多し・・・沢登り体験会とゆうより、ゴルジュ体験会となってしまう。スクラム渡渉、ロープを使用した渡渉練習などを行うが参加者皆さん

もうバンバン流されます！今回、新規会員となったかほりちゃんより、もう充分満足ですとさっそくタイムが入る。そこで早々と本流での遡行は止めにして栃ノ木沢手前でロープワークの練習。確保のシステム、懸垂下降、固定ロープの登高などの練習を行う。お昼は焚火を起こして体を温めてから支流に入渓。迫力のある雪渓下の釜の泳ぎからの小滝越え、帰りは釜にダイブで下山。心配していた雨にも当たらず、滝登りこそなかったものの、一通りのメニューを楽しんでもらえたかな。私も今シーズン最初の沢であり、大変楽しかった！新しい仲間が増えたのが何より嬉しいです！Enjoy Climbing！（海老名 誠）



ロープワーク練習



へつり



釜の泳ぎから小滝越え

<< 以下、参加者の方の感想です。>>

沢登り体験会に参加してみた

昨年、友人に誘われて沢登りをした。その時の楽しかったこと(途中、滑落しかかり恐怖体験も味わった)が忘れることができないでいた。今年も沢登りをしたいと思っていたが、その友人は「今年はするかわからない」という返答。去年、靴も購入したのに、一度も履かずに箱の中で眠ったまま。あー、もったいない。そのため、インターネットで沢登りを行っている所はないかなあと探したら「あった!」。私は心の中で「やったあ、あの楽しかったことがまた体験できる」と思い、思い切って体験会に申し込んでみた。

正直、私は体力はないし、登山も沢登りの経験もほとんどないに等しい素人。こんな私だけど、海老名さんから届いたメールの返事は「山に興味があれば良し」。この返事を見て一安心した私。すぐに沢登り体験会に参加することを決めた。そして、体験会当日、私はとんでもない目に合うとは想像もしていなかった。

十字峡は毎年、紅葉を観に行く私のお気に入りスポット。「そこを沢登りできるなんて素敵!」と胸を踊らせながら参加した。しかし、出だしから水の流が速くて流されてしまう始末。「あー、みんなについて行けない。私がいることで雰囲気が悪くなってしまふ。帰りたい。とんでもない所に来てしまった。」と心の中で叫んでいた。しかし、参加しているメンバーが暖かく見守って下さるし、励ましてくれる。助け合ったり支え合ったりしながら行動を共にすることで、自然と辛さやマイナス思考が消えていった。むしろ一緒に行動することで、難所を突破できる達成感の方が強くなり、楽しさへと変わって行った。

体験会に参加して感じたことは、メンバーがお互いを助け合ったり励ましあったりし支え合うこと。一つの目標をみんなで達成し、喜びを共感できるところにあると感じた。

最後に未熟者ですが、宜しくお願いします。(荒井 かほり)

三国川 沢登り体験会

十字峡から三国川沿いの林道は歩いたことがあり、三国川は沢というよりも川というイメージだった。水量の多い急流。計画書には三国川本流とだけ書かれていたので、そのどこで沢登り体験をするのだろうかと思っていた。林道のゲートから数分のところで三国川に下りたときには驚いてしまった。その後も次々と衝撃的な体験に圧倒され、断片的な記憶しか残っていない。すでに帰り道では、林道から三国川を見下ろしても、どこから川に入ってどこから林道に上がったのかが思い出せなくなっていた。

水に入ってすぐに腰くらいの深さのところを通った気がする。水流の強いコンクリートの壁際を進んだときには、手がかりのないところで今にも流されそうになった。後ろの羽田さんがスリングをつないでくれてい

たが、自分が流されたらどうなるのか不安だった。

渡渉訓練では、深くはない流れに踏み出した瞬間に倒された。その直前に荒井さんが転ぶのを見て自分は転ぶまいと決意したのだが、その決意は通用しなかった。ロープで確保されていたので対岸の近くまで振り子のように流され、そこに足がかりになる岩があってどうにか立ち上がることができた。全身が濡れて寒くなった。本格的に流された場合にとるべき体勢についても教わった。あれ、渡渉訓練は内膳沢だったかな。

みんなが寒くなったので、いったん三国川から上がった。栃ノ木橋のところで、懸垂で河原に下りたり確保された状態で登ったりする訓練をした。訓練を受けた3人の下降器の種類がそれぞれ違って興味深かった。ハーネスは、6人全員の中でも私のものだけがビレイループにカラビナを使うタイプだった。下降器、登降器のセットやフリクションヒッチなどを教わり、確認してもらってから挑戦したので、緊張しながらも安心できた。むしろ自分1人でできるようになってからの初歩的なミスが今から心配だ。家では教わったやり方で補助ロープを巻いてみたが、それ以外には復習をしていないので、大事なことを忘れてしまいそうだ。

内膳沢落合で焚き火の休憩をしてから、内膳沢を遡った。ロープで確保してもらった場面や雪溪の下を別にすれば、この岩で足を滑らせたなら確実に大怪我をするというような意味での危険箇所はなかったはずだが、これまでに歩いたことのあるどんな岩場よりも難しかった。水の中には、ラバーソールの沢靴が滑りそうになる石もあった。内膳沢をどこまで遡ったのか、地形を観察していなかったため、地図で教えてもらってもピンとこなかった。林道や登山道を歩く感覚からすると、進んだのはほんの短い区間に過ぎなかった。引き返すときは、往路とは反対側の岸を下ったり斜面の灌木の間を伝ったり、いろいろにルートが選べるらしいことがわかっておもしろかった。(池上竹彦)

大沢川(沢登り)

2014/8/3

メンバー L海老名、須藤、国井、関川、荒井、羽田、池上

04:30 新新バイパス道の駅豊栄に集合(車3台で出発)

国道113号向大沢橋手前の荒川河原に到着

(車2台を沖庭神社付近の下山予定地点にデポ)

07:20 大沢川入渓

車デポ地点に下山

新新バイパス道の駅豊栄で解散

7月13日の三国川に引き続き、荒井さん、羽田さん、池上の新人3名が沢登りを体験した。今回は前回のメンバーに国井さんが加わった。金子さんも予定していたが都合がつかなかった。大沢川は、いくつもの滝が登れて遡行後の下山が容易とのことだった。

最大の難関は、堰堤を通過してまもなくのチョックストーンの滝だったようだ。須藤さん、海老名さん、国井さんがいろいろなルートから挑戦するが、なかなか成功しない。結局、国井さんが取り付けたアブミを利用して海老名さんが乗り越えた。下ろしてもらったロープで全員が上がったが、私はロープにも荷重してしまった。



チョックストーンに挑む

ほかの3つの滝でもロープで確保してもらった。高くて難しくて、落ちると危険なところ。沢登りの事故の多くは、時間を惜しんで安全確保の手順を省略したり簡略化したところで起きるのだそうだ。私は前回教わった登降器の使い方を忘れてしまい、ベーシックに直接スリングをつけて登るところだった。

一番大きな3段の滝は高巻きをした。より高く安全なルートが選ばれた。沢に下りるところは急斜面だったが、枝につかまることができたので、懸垂下降の必要はなかった。

そのほかにも無数の小さな滝と大きめの滝を越えた。出発する前は肌寒いほどだったが、午後までよく晴れて日射しが強く、沢登り日和だった。滝が終わって沢が平らになると、やがて沖庭神社に通じる小径の渡渉ポイントがある。周りの人も現在地がはっきりしない様子だったが、小径は明るいブナ林を通り抜け、沖庭神社の下から林道に出た。今回は神社に寄ることができなかったので、いつかもう一度来たい。(池上竹彦)



大小の滝が連続する



今月のコラム

映画「岳」と「春を背負って」

「岳」は石塚真一の漫画「岳～みんなの山」が原作で、2010年に小栗旬主演で映画化された。北アルプスの山岳警備隊のボランティア島崎三歩はいわばスーパーマンだ。山の中(稜線付近)にテントを張って住み、救助要請があればすぐさま現場に向い、負傷者を背負って垂直の岩壁(時には氷壁)を登る。雪崩に遭遇しても雪の中から立ち上がる。「こんなのあり?」と思うような描写が散見されるが、全体を流れるトーンは「山賛歌」であり、映像(舞台は穂高連峰と思われる)もそれなりに美しい。三歩は山を甘く見て遭難した人に対してさえ「よくがんばった」「また山においでよ」と声を掛ける。「山っていいよね」というメッセージにあふれている。しかし残念ながら原作の方が数段面白い。

一方、今年公開の「春を背負って」は笹本稜平の小説が原作である。小説の舞台は奥秩父の信濃川源流部が舞台だが、映画は立山・大汝山が舞台となっている。監督は「劔岳点の記」の木村大作である。木村は「八甲田山死の彷徨」のカメラマンも務めており、山を撮ることを得意としているだけに山の映像は美しい。しかしドラマがどうも薄っぺらに感じるのは僕だけだろうか。映画では主人公亨は、父親の死を機に大手証券会社のトレーダーをやめ、小さな山小屋を継ぐ。トレーダーという仕事に疑問を感じている様子は語られるが、なぜ山小屋の経営をしようと思ったのかはよくわからない。山小屋のパートナーであるゴロさんは父の後輩で山のベテランであり、フリーターっぽい人物だ。原作ではゴロさんが強盗犯と誤認され、その事で亨と心理的な齟齬を来たすのだが、映画ではその辺の話はすっぱりと捨象されている。山小屋のもうひとりの従業員愛(原作では美由紀)もいろいろな経緯の上に山小屋で働くことになるのだが、映画ではその辺のことがさらっと語られるだけだ。監督はドラマよりも立山を撮りたかったのではないかとすら思える。映画にモンベルの社長や山岳監修も務める多賀谷ガイド(「劔岳点の記」でも山岳監修を務めた)を登場させたりして、仲良し映画かとも思った。

あくまでも僕の個人的感想です。まだ見ていない人は僕の感想を気にしないでください。(ぜひ見てくださいとは言わないが…)。

(中村政道)

● 会費について

☆会員 年会費9,000円（夫婦会員は2人で16,000）
保険料 5,000 円～ 月割可（詳細は金子まで）

☆会報会員 年会費1,000円（月報の電子配信会員）

- ・ 1 月末までに下記講座への振込をお願いいたします。
郵便局 記号: 11220 番号: 23683431 口座名 : 新潟稜友会
- ・ 不明な点は丸山亮子まで

● 会員だけの掲示板が出来ました

山行計画、下山報告、住所変更、アドレス変更などに利用してください。
会のホームページの掲示板ページからもログインできるようになっています。
会員専用掲示板は一般公開されません。
公開してもかまわない記事は今まで同様掲示板に投稿してください。

アドレス : <http://8421.teacup.com/msudou/bbs>

携帯電話(iモードなど)からも閲覧、書込み可能です。

ID・パスワードは、知っている会員から聞いてください。

● 万代市民会館集会室利用方法

最初に来館した人は、4階ロッカー室の稜友会の棚から、当日の日付が書いてある利用許可書1枚を持って1階受付に提出し、必要事項に記入の上、部屋のカギを受け取って会場に入ってください。

● 必ず守ってください

山行計画書、下山報告共に

金子・海老名

まで、FAX・メール・携帯電話等で連絡の事

次回原稿締め切り 9月6日(土) 担当:三木まで

●原稿形式

形態を()で

日付は全角、西暦で

地図・地区もなるべくつけてください

鳥海山湯ノ台口(山スキー)

2000年6月3日(土)~4日(日) 2万5千円「湯ノ台」「鳥海山」

メンバー L

3日 7:00 湯ノ台口 10:00 滝ノ沢小屋 …横書きで

本文

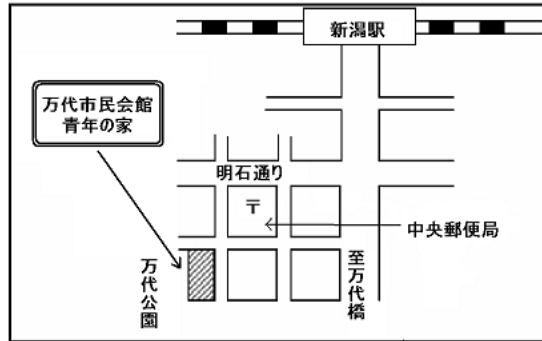
★ (橋本寅信)…カッコでフルネーム

★表紙に写真を載せて欲しい人は月報担当者にネガ(または写真)を送るか、電子データとしてメールで送って下さい。表紙以外で写真を載せて欲しい人は担当者に渡して下さい。

テキスト形式が基本ですが、ワードで原稿を送ってもOKです。FDの場合は、プリントアウトしたものを同封して下さい。

新入会員募集中！

毎月第3水曜日pm7:30～万代市民会館4階の「青年の家」にて集会を開催しています。気楽に顔を出してください。詳しくは、TEL 025-223-0393 金子恒夫



[編集後記]

今年のお盆休みは、某外資系顧客の仕事のせいで潰れた。どこへも行けなかった。他国の伝統行事は尊重して欲しい。自分達の祝日はしっかり休むくせに。天気があまりよくなかったので、休みだったとしても同じ結果だったけど…。(さ)



月報「稜友」August, 2014 No.236 2014年8月17日発行

発行者 新潟稜友会 代表 金子恒夫

〒951-8081 新潟市寄附町 5006 Tel 025-223-0393

